

Dash to the GOALS!

SDGs達成に向けた経団連の取り組み

Keidanren
Policy & Action

一般社団法人 日本経済団体連合会

〒100-8188 東京都千代田区大手町1丁目3番2号 経団連会館

TEL: 03-6741-0150

<http://www.keidanren.or.jp/>

<https://www.keidanrendsgs.com/>



Delivering on the SDGs through the Realization of Society 5.0

Society 5.0の実現を通じたSDGs(持続可能な開発目標)の達成

Keidanren
Policy & Action



経団連はSDGsを支援しています。

経団連では、IoTやAI、ロボットなどの革新技术を最大限活用して人々の暮らしや社会全体を最適化した未来社会、Society 5.0の実現を目指している。

この未来社会では、経済成長と健康・医療、農業・食料、環境・気候変動、エネルギー、安全・防災、人やジェンダーの平等などの社会的課題の解決とが両立し、一人ひとりが快適で活力に満ちた生活ができる社会が実現する。こうした未来の創造は、国連で掲げられたSDGsの理念とも軌を一にするものである。

そこで、今般、経団連では、Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成を柱として企業行動憲章を改定する。

(企業行動憲章の改定にあたって)

Top Message

近年、IoT、AI、ビッグデータ、ロボットなどのデジタル化の波が、多くの産業にパラダイムシフトと呼ぶべき革命的な変革をもたらし始めています。こうした流れを産業界のみならず、社会全体の変革につなげていくことが、企業の社会的な役割であり、経団連が実現を目指す「Society 5.0」のコンセプトです。

Society 5.0 は、革新技术の活用を通じて、人びとの快適な暮らしと社会的課題の解決を両立することを目指しており、SDGsの達成に道を開くものです。経団連では、様々なステークホルダーとの連携を維持・強化しながら、グローバル経済の安定的かつ持続的な発展に貢献してまいります。引き続き皆さまからのご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

会長 中西宏明

(取締役会長兼執行役、(株)日立製作所)



Hiroaki
Nakanishi

Index 目次

Introduction P1

Top Message P3



Keidanren Initiatives to SDGs

経団連のSDGs達成に
向けた取り組み

P19

Low Carbon
低炭素社会



P23

Material-Cycle
循環型社会



P25

Biodiversity
生物多様性



P27

Diversity
& Inclusion
ダイバーシティ&インクルージョン



P29

With Partners
パートナーシップ





Society 5.0 for SDGs

水質、森林、土地劣化、生物多様性などのモニタリングおよびマネジメントに、リモートセンシング・データや、海洋観測データを活用

スーパーコンピュータを用いて、気象観測データの解析に基づくシミュレーションにより、気候変動問題を解決

利便性、安全性、経済性を両立させたスマートな都市を創出

産業界、学術界、その他のステークホルダーを結びつけることで、グローバルなイノベーションエコシステムを構築

i-Construction を活用し、レジリエントなインフラの構築と持続可能な産業化を促進



IoT、AI、ビッグデータを活用したスマート農業により食糧生産を増大
最先端のバイオテクノロジーを用い生産されたスマートフードにより栄養状態を改善

多種多様なモニタリングデータを組み合わせ、感染症予防のための早期警戒システムを開発

最先端の技術を活用した e ラーニングシステムを用いることで、地球上の誰もが高品質の教育を手頃な価格で享受可能に

インターネットを通じた教育や情報へのアクセスにより女性の地位を向上 ICT を活用して女性に起業の機会を提供

スマートグリッドシステムの構築による持続可能な電力需給の管理

What's “Society 5.0”

“Society 5.0”って何？

1 狩猟社会

2 農耕社会
灌漑技術の開発
定住化の定着

3 工業社会
蒸気機関車の発明
大量生産の開始

4 情報社会
コンピュータの発明
情報流通の開始

5 Society 5.0

Society 5.0 とは、1. 狩猟社会、2. 農耕社会、3. 工業社会、4. 情報社会に続く、人類社会発展の歴史における5番目の新しい社会です。

この未来社会では、IoTやAI、ビッグデータ、ロボットなどの革新技術が、あらゆる産業や社会で最大限活用されることにより、様々な社会的課題の解決と、一人ひとりの快適で活力に満ちた暮らしが実現します。

Toward Society 5.0

Society 5.0 に向けて

Society 5.0

は、経済成長と健康・医療、農業・食料、環境・気候変動、エネルギー、安全・防災、人やジェンダーの平等などの社会的課題の解決とが両立し、誰もが快適で活力に満ちた生活ができる社会のコンセプトです。

こうした未来の創造は、国連で掲げられたSDGsの理念とも軌を一にしています。

経団連では、「**Society 5.0 for SDGs**」こそが、民間企業が果たすべき役割と考え、2030年に世界で実現できるよう取り組んでいます。

Society 4.0 (情報社会)



ICT活用
による
個別最適化

天然資源の
効率的活用

時空間制約など
様々な制約に
依存した世界

個別課題の解決への模索
個別産業の効率化

Society 5.0

(超スマート社会)



サイバー空間と
現実空間の
融合による
社会全体の最適化
(全体最適化)

新たな資源
(データ)
の活用

様々な制約
から解放
された世界

**複雑化する
社会課題の解決
社会・国民の
豊かさの実現**



Healthcare in Society 5.0

Society 5.0 時代のヘルスケア

日本は世界に先駆けて超高齢社会を迎えます。経団連は、その処方箋として、「Society 5.0 時代のヘルスケア」を検討しました。個人の活動や生理機能に関するデータ活用や、バイオテクノロジーの進歩を軸に、ヘルスケアに変革をおこします。Society 5.0 時代のヘルスケアは、ひとりひとりに最適化され、未病段階のケアや予防、これまで治せなかった病気の治癒を可能とするものです。世界の人々を健康にし、SDGs の達成に寄与します。Society 5.0 は人間中心の社会であり、ヘルスケアは先端技術の活用による変化とメリットが最も多く存在する領域であると期待されます。



Society 5.0

Society 4.0



画一的、平均的な人が対象のヘルスケア



個人のデータ化



バイオの進歩

Society 5.0



個別化へ



「ヘルスケア」の範囲が拡大／健康に生活できる期間も長く



2030年 のSDGs達成に向けて、
私たちは **Society 5.0の実現** を
目指しています。

経団連 は、長年にわたり、**持続可能** な
社会の実現に向けた**多くの活動** を続けています。

ここでは、その一部をご紹介します。



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

経団連会員企業は SDGs の達成に向けて、共通の行動指針 として「企業行動憲章」を遵守しています

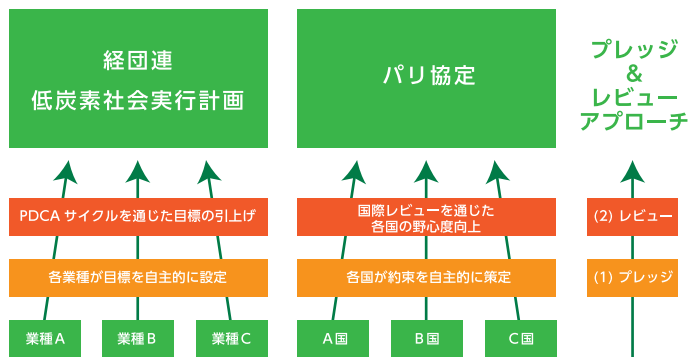
企業行動憲章 — 持続可能な社会の実現のために —	
企業は、公正かつ自由な競争の下、社会に有用な付加価値および雇用の創出と自律的で責任ある行動を通じて、持続可能な社会の実現を牽引する役割を担う。そのため企業は、国の内外において次の 10 原則に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。	
 1 持続可能な経済成長と社会的課題の解決 イノベーションを通じて社会に有用で安全な商品・サービスを開発、提供し、持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図る。	 6 働き方の改革、職場環境の充実 従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現する。また、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整備する。
 2 公正な事業慣行 公正かつ自由な競争ならびに適正な取引、責任ある調達を行う。また、政治、行政との健全な関係を保つ。	 7 環境問題への取り組み 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に行動する。
 3 公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話 企業情報を積極的、効果的かつ公正に開示し、企業をとりまく幅広いステークホルダーと建設的な対話を行い、企業価値の向上を図る。	 8 社会参画と発展への貢献 「良き企業市民」として、積極的に社会に参画し、その発展に貢献する。
 4 人権の尊重 すべての人々の人権を尊重する経営を行う。	 9 危機管理の徹底 市民生活や企業活動に脅威を与える反社会的勢力の行動やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に備え、組織的な危機管理を徹底する。
 5 消費者・顧客との信頼関係 消費者・顧客に対して、商品・サービスに関する適切な情報提供、誠実なコミュニケーションを行い、満足と信頼を獲得する。	 10 経営トップの役割と本憲章の徹底 経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識して経営にあたり、実効あるガバナンスを構築して社内、グループ企業に周知徹底を図る。あわせてサプライチェーンにも本憲章の精神に基づく行動を促す。また、本憲章の精神に反し社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たす。



プレッジ&レビューの実施

我々は、1997 年より、パリ協定に採用されたプレッジ
&レビューを通じて、我が国の CO₂ 排出量削減に大きな
成果を挙げてきました。

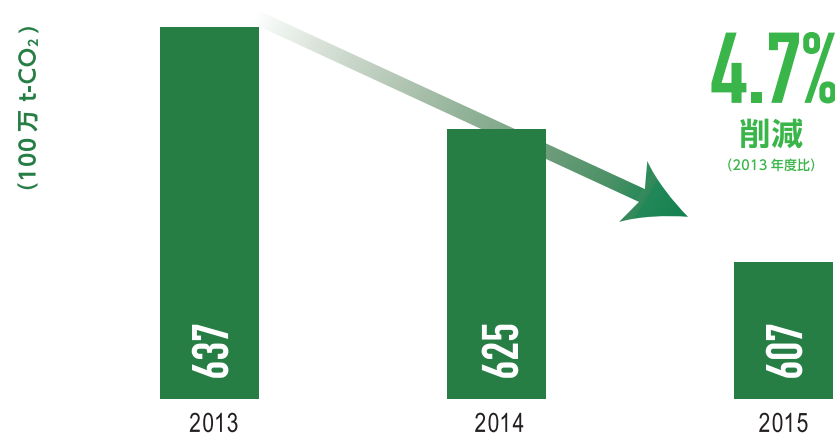
低炭素・省エネ型の革新的な技術の開発・普及を図り、
さらなる削減に挑戦しています。



産業・エネルギー転換部門 34 業種の CO₂ 排出量



産業・エネルギー転換・業務・運輸部門 60 業種の CO₂ 排出量



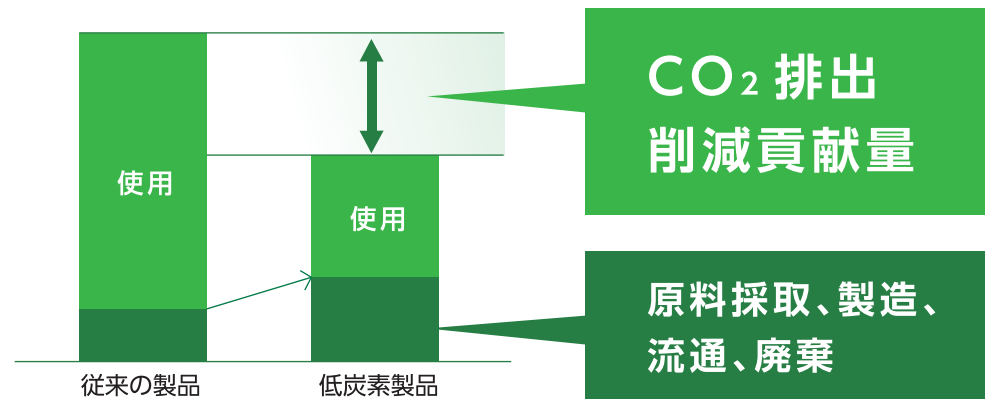


グローバル・バリューチェーン (GVC) を通じた地球規模での 排出削減貢献

自らの事業からの排出削減のみならず、国内外のバリューチェーンを通じた低炭素・省エネ型の製品・サービスの普及により、地球規模のCO₂排出削減に貢献します。

優れた技術・ノウハウを新興国・途上国に移転することで、世界の持続的な社会の発展に貢献します。

製品のライフサイクルを通じたCO₂排出削減のイメージ



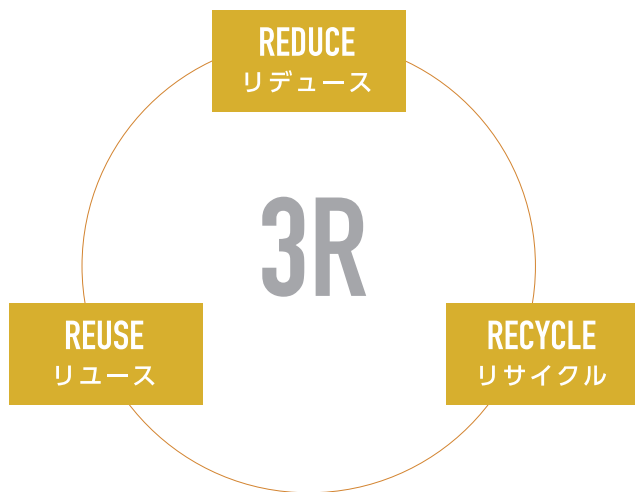
次世代車の例



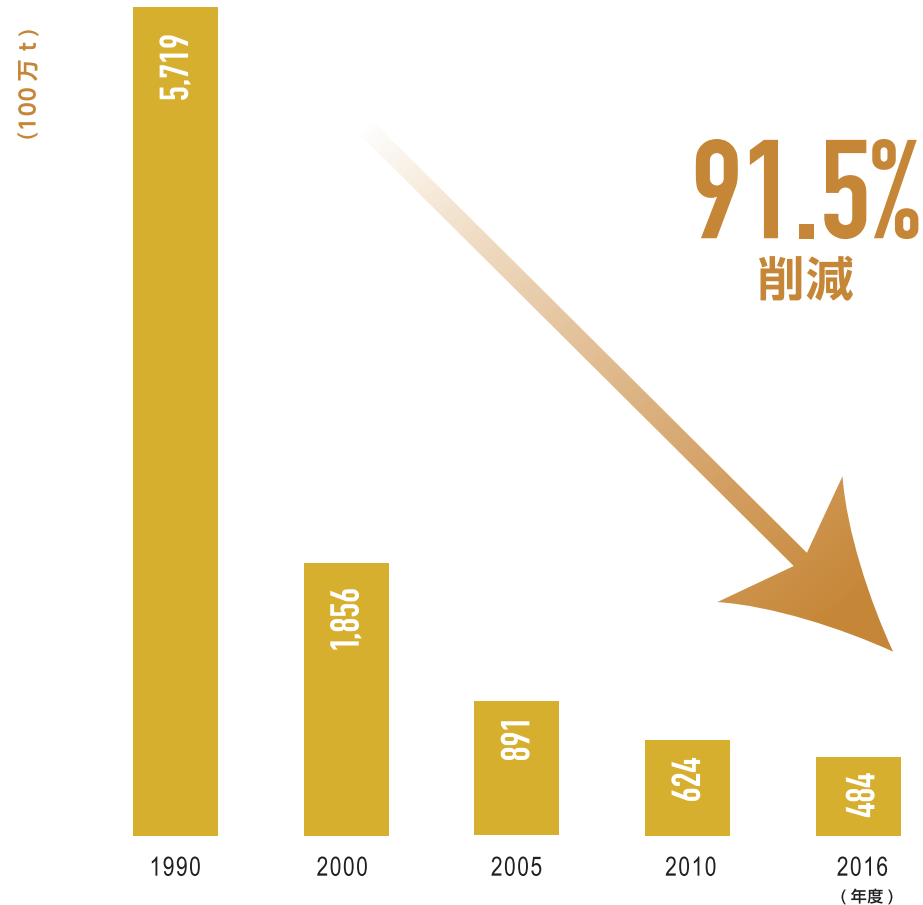


循環型社会の実現

我々は、循環型社会の実現に向けて、3 R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進しています。
産業廃棄物最終処分量についても、自主的な取組みを通じて、大幅な削減を達成しています。



産業廃棄物最終処分量



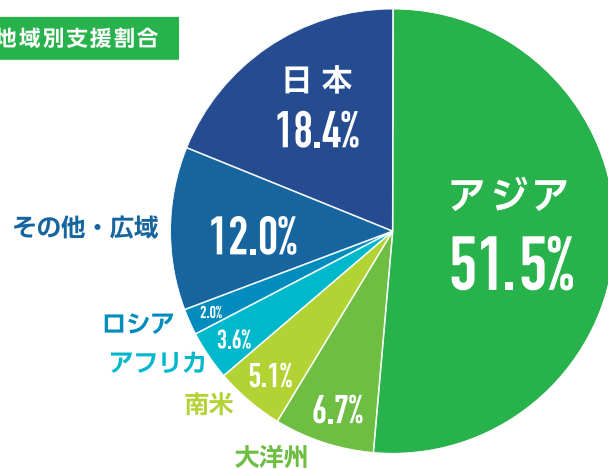


経団連自然保護協議会は、1992年の設立以来、四半世紀にわたり、経団連自然保護基金を通じて、国内外のNGOが実施する自然保護・生物多様性保全プロジェクトを支援しています。支援実績は累計で1400件以上、約40億円以上にのぼっています。



経団連自然保護協議会
公益信託経団連自然保護基金

地域別支援割合



支援プロジェクト数

1418 件

支援額

約 40 億円



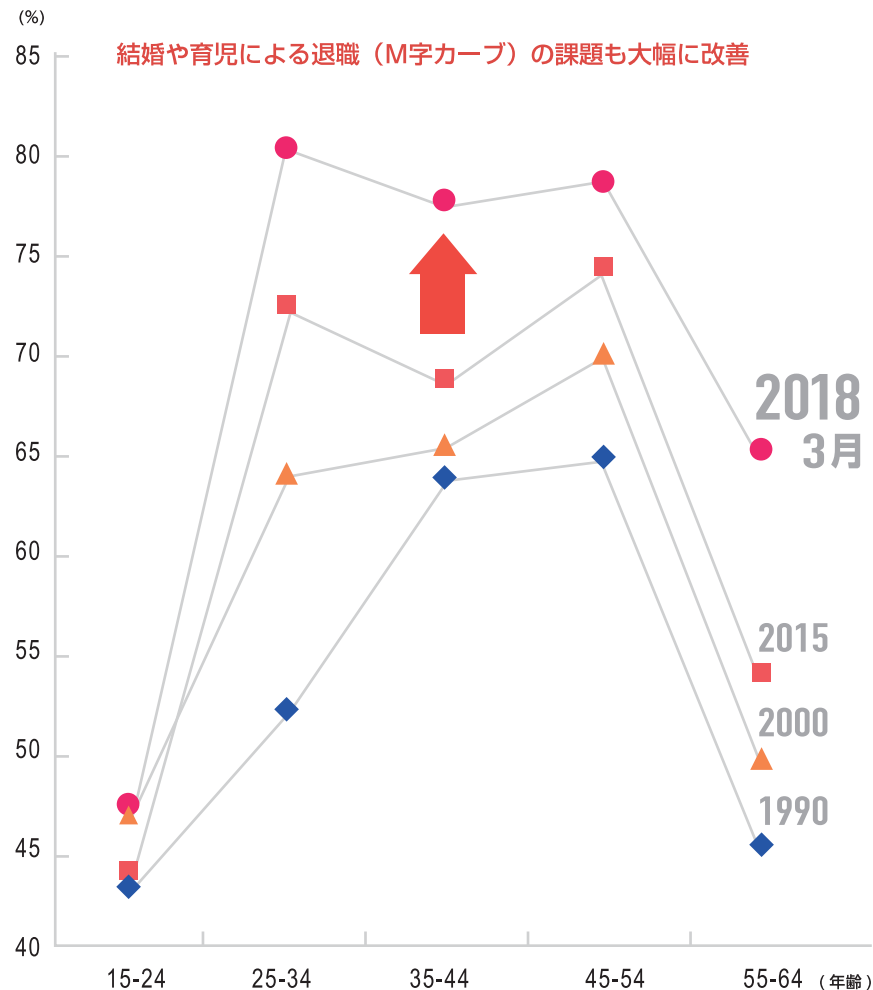
Womenomics (Women×Economics) の推進

少子高齢化が急速に進展する日本にとって、多様な人材が活躍できる環境の整備は急務であり、ダイバーシティ&インクルージョンへの取り組みは企業にとって不可欠な「経営戦略」となっています。

こうした中、女性活躍を通じた経済成長を目指す"Womenomics" (Women×Economics) の推進により、女性活躍の進展やビジネス上の成果が着実に実現されてきています。

女性の就業者は2012年から
2017年にかけて

約**200**万人
増加しました。





CBCC は



さくら女子中学校
(タンザニア) への支援



アンコール小児病院における医療
教育事業 (カンボジア) への支援



国際貢献事業への

パリ日本文化会館における国際文化交流
および日本語普及事業 (フランス) への支援

(累積)
235 億円 の寄附を扱っています。

1989 年に経団連が設立した CBCC ((公社) 企業市民協議会) は、CSR (企業の社会的責任) の推進に資する活動を展開しているほか、「国際貢献事業」への寄附金の受入れおよび同事業実施主体への送金を行っています。「国際貢献事業」とは、日本企業が進出している

現地コミュニティへの貢献や海外との交流拡大等に資する事業として CBCC が認定したもので、同事業への企業および個人による寄附金には税制上の優遇措置が講じられます。2018 年 5 月までに 150 件の事業を認定しており、それらへの寄附実績は総計約 235 億円にのぼっています。



「Society 5.0」を実現し、世界のあらゆる社会的課題を解決するため、経団連では多様なステークホルダーとのパートナーシップの構築に努めています。



About KEIDANREN

経団連について

経団連は、日本の代表的な企業 1,376 社、製造業やサービス業等の主要な業種別全国団体 109 団体、地方別経済団体 47 団体などから構成されています（いずれも 2018 年 5 月 31 日現在）。その使命は、総合経済団体として、企業と企業を支える個人や地域の活力を引き出し、日本経済の自律的な発展と国民生活の向上に寄与することにあります。

このために、経済界が直面する内外の広範な重要課題について、経済界の意見を取りまとめ、着実かつ迅速な実現を働きかけています。同時に、政治、行政、労働組合、市民を含む幅広い関係者との対話を進めています。さらに、会員企業に対し「企業行動憲章」の遵守を働きかけ、企業への信頼の確立に努めるとともに、各国の政府・経済団体ならびに国際機関との対話を通じて、国際的な問題の解決と諸外国との経済関係の緊密化を図っています

KEIDANREN EXECUTIVE MEMBER COMPANIES

HITACHI
Inspire the Next

NOMURA

 日本生命保険相互会社	 MUFG 三菱UFJ銀行	 三菱重工
 住友化学	 MITSUI & CO. 三井物産株式会社	 日本郵船
 TOKYO GAS	 三菱商事株式会社	 住友不動産株式会社
 SMBC	 大成建設 For a Lively World	 新日鐵住金 しんにつつすみん
 MITSUBISHI ELECTRIC Changes for the Better	 TOYOTA	 東京海上ホールディングス
 JR JR東日本	 ANA	 JXTGグループ
 SHOWA DENKO	 大和証券グループ本社 Dai-ichi Kangyo Bank Ltd.	 MS&AD 三井住友海上
 一 HAKUCHI	 Asahi	 Panasonic
 Orchestrating a brighter world NEC	 AsahiKASEI	 伊藤忠商事
 三井不動産	 astellas	 MIZUHO
	 SEVEN & i HOLDINGS	 IHI Realize your dreams
	 SUNTORY	 NTT

世界を変革するための17の目標、SDGs



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



「SDGs は人類の叡智です」。

しかしこの野心的な目標の達成には、

依然として大きな壁が立ちはだかっています。

経団連は、「Society 5.0」の実現を通じて、

この壁を突破していきます。

あなたと共に。

**Dash to the
GOALS!**

SDGs達成に向けた経団連の取り組み